



# 弘前医療福祉大学 紀要

## 弘前医療福祉大学短期大学部

*Journal of Hirosaki University  
of  
Health and Welfare and Junior College*

第4巻 第1号

(通巻14号)

2023年3月発行

弘前医療福祉大学 紀要  
弘前医療福祉大学短期大学部  
J Hirosaki Univ of Hlth & Welf & Jr Coll

弘前医療福祉大学紀要編集委員会  
弘前医療福祉大学短期大学部紀要編集委員会

# 目 次

巻頭言	弘前医療福祉大学長 下 田 肇	
[原 著]	父親のクッキング体験教室の参加が家事育児・食事作りに及ぼす影響 高瀬 園子、松尾 泉、石岡真移子、葛西 静男、西沢 義子	1
[研究報告]	北東北地方のひとり暮らし高齢者の主観的健康感に関する調査 松尾 泉、西沢 義子、福岡裕美子、石田 賢哉	9
	A県における認知症グループホームの看取りケアの実態 福岡裕美子、中川 孝子、木村ゆかり、切明美保子、三浦 広美、熊谷和可子	17
	医療・福祉系大学生の情動知能と情動語の関連 小玉 有子、沖林 洋平	25
[特 集]	令和4年度 公開講座実施報告・事業実施報告 公開講座『教訓・すべての答えは現場にある。 ～東日本大震災・岩泉台風10号から学ぶ～』 荒谷 雄幸	37
	公開講座『転倒予防とリハビリテーション』 石井 陽子	43
	公開講座『いのちの受けとめ手になるということ』 工藤 うみ	45
	公開講座『ことばの遅れとは?』 須藤 美香	49
	公開講座『腰痛予防と移乗介助の基本動作』 福士 尚葵	51
	公開講座『授業のひとコマ～ハヤシライスのチョットとしたコツ!!～』 葛西 静男	53
	事業実施報告『自己学習支援ポータルサイト「Step up」の制作とその効果について *アンケート実施結果内容の報告*』 釜薙 一正、越前 茂宜、岡田 孝文、立岡 伸章	55
	事業実施報告『「介護フェスタ」 ～見て・触れて・気づく 介護福祉の魅力発信・啓発・体験型イベント～』 中村 直樹	65

投稿規程・執筆要項	73
編集後記	
紀要編集委員会委員	

---

弘前医療福祉大学紀要（ISSN 2185-0550）は2010年3月に刊行され2019年3月第10巻1号まで発行いたしました。弘前医療福祉大学短期大学部紀要（ISSN 2187-6436）は2013年3月に刊行され2019年3月に第7巻1号まで発行いたしました。両紀要は、合同して新たに「弘前医療福祉大学・弘前医療福祉大学短期大学部紀要」となりました。それに伴ってISSNは2435-0915と変更になりました。巻号はこれまでの弘前医療福祉大学紀要を受け継ぎ、通巻14号となります。

## 弘前医療福祉大学 弘前医療福祉大学短期大学部 紀要 投稿規程

### (目的)

第1条 弘前医療福祉大学および弘前医療福祉大学短期大学部（以下「本学」という）における紀要の名称を「弘前医療福祉大学 弘前医療福祉大学短期大学部紀要」Journal of the Hirosaki University of Health and Welfare and Junior College（略称：J Hirosaki Univ of Hlth & Welf & Jr Coll）(2435-0915) とし、以下「紀要」という。紀要は本学における研究成果発表を目的として、定期的に刊行される。

### (発刊)

第2条 紀要の発刊は原則として年1回とし、弘前医療福祉大学 弘前医療福祉大学短期大学部紀要編集委員会（以下「委員会」という）がその任にあたる。

- 2 紀要は、発刊前年度の12月21日から発刊年度の12月20日までに投稿された論文を第1号として刊行する。
- 3 投稿に相当の遅滞があった場合は、委員会での協議の上、次号発刊の紀要において対処する。
- 4 発刊期日は原則として発刊年度の末日までとする。

### (投稿資格者)

第3条 紀要への投稿資格者および筆頭著者は、次のとおりとする。

- (1) 本学専任教員
- (2) 本学非常勤講師
- (3) その他、委員会が適切と認めた者

### (受付・査読・採否)

第4条 投稿原稿は「投稿原稿提出書」を必ず添付したうえで、各学科または専攻の紀要編集委員を経て随時受け付ける。委員会は「受領書」を発行する。

- 2 論文の種類は以下①-④を受け付ける。なお、①-③は査読ありとする。
  - ① 総説：ある主題に関連した研究の解説、総括
  - ② 原著論文：独創的な研究により、新しい知見、理論を示した論文
  - ③ 研究報告：研究上の問題提起、興味深い事実や実態・事例・症例に関する報告、未整理だが、すぐに知らせる意義のある研究
  - ④ その他委員会が認めたもの：教育実践報告、研修報告、国際学会報告、セミナー報告、イベント実施報告、公開講座報告など
- 3 投稿原稿は全て受理するが、原則として一人一編とする。本文の長さ、図・表・写真の大きさ等、編集上不都合が生じる場合、または印刷体裁が整わない場合には、変更を求めることがある。
- 4 投稿原稿は「投稿原稿提出書」を必ず添付したうえで、各学科または専攻の紀要編集委員を経て随時受け付ける。委員会は「受領書」を発行する。
- 5 受領した論文のうち④その他委員会が認めたもの以外は、すべて第三者に査読される。査読後、委員会は投稿論文の種別・内容・体裁について修正を求めることがある。
- 6 論文の採否は委員会において決定され、その結果は通知される。
- 7 著者校正は初校までとし、初校での大幅な追加、修正は原則として認めない。

### (著作権)

第5条 掲載論文の著作権は本学に帰属し、論文の電子化は了承されたものとする。但し著者が当該論文を利用する場合は本学の許諾を必要としない。

### (経費負担)

第6条 投稿原稿が規定の枚数を超過した分については、著者の負担とする。

- 2 投稿者は初校の際に別刷の必要部数を委員会に申告するものとする。
- 3 別刷は 10 部まで共通経費負担とし、それを越えた分は著者負担とする。

(倫理的配慮)

第7条 投稿原稿の内容が倫理的配慮を必要とする場合は、「方法」の項に倫理的配慮や研究対象者への配慮を記載すること。研究倫理委員会の承認を得て実施した研究は、承認された研究課題名の名称および承認年月日を本文中に記載する。

(利益相反)

第8条 利益相反状態がなければ、末尾の引用文献リストの前にその旨を付記する（例：本研究は、開示すべき利益相反状態は含まれていない）。開示すべき利益相反状態を含む場合は、「本研究は、本学の利益相反マネジメント委員会の審査を受けている」と明記し、なおかつ謝辞の中に関係団体名を明記する。

(複数著者の責任分担)

第9条 委員会に提出される原稿の中で、複数名の共同研究者（連名）においては必ず、共同研究者全てについて役割分担、または、研究作業のどの部分や箇所において責任を果たしたのか、本文中に明示する。

(その他)

第10条 論文の執筆要項に関しては、委員会が別に定める。

附則 本規程は2019年4月1日から施行する。

附則 本規程は令和4年4月1日から施行する。

# 弘前医療福祉大学 弘前医療福祉大学短期大学部 紀要 執筆要項

## 1. 原稿の構成と表記

- (1) 原稿はA4版、10.5ポイントで1枚につき40行横書きとする。句読点は「。」および「、」を用いる。原稿は刷り上がりで10ページ以内とする。ただし、総説についてはこの限りではない。刷り上がりページ数は1ページあたり、日本語1,600字、英語500語、文献20件をおよその目安として計算すること。
- (2) 表紙には論文題名、著者名、所属および所在地（希望するならe-mailアドレスも）を和文と欧文の両方でそれぞれ明記する。さらに本文枚数（引用文献、要旨を含む）、図、表、写真、図表の説明文などの枚数を記載し、最後に論文の種類：「原著論文」（例）のように明記する。2枚目には600字以内の和文要旨とキーワード3-5語、3枚目には300語以内の英文要旨とkeywords 3-5語を記す。
- (3) 図表には「図1」、「表1」、「写真1」等それぞれの通し番号をつけ、本文とは別に一括する。図表の説明は別紙に記載する。掲載箇所は、赤字で図・表・写真の番号をもって指定する。
- (4) 外国の人名、地名に原語を用いるほか、叙述中の外国語にはできるだけ訳語をつける。
- (5) 文献でない備考・注などは、\*、\*\*などを右肩につけ説明を脚注とし、その原稿用紙の下部に記述する。脚注内の文は9ポイント、行間は1スペースとする。その頁の下に横線を引き、その下側に挿入すること。本文中の脚注による記述は可能な限りさけること。
- (6) 複数著者の責任分担については、引用文献の前に明記する。

## 2. 文献記載の様式

- (1) 文献は、本文の引用箇所の肩に1)-3)と表し、最後に一括して引用順に掲げる。
- (2) 文献は、“引用”や“参考”をつけず、「文献(References)」として扱う。
- (3) 文献の記載方法・順序

執筆者名の記載人数は制限を設けませんが、筆者が4名以上の場合は3名を記載し、それ以上の執筆者名について、和文の場合は“他”と、欧文の場合は“et al.”と略してもよい。

〈雑誌〉著者名：表題名. 雑誌名. 巻(号)：頁-頁, 発行年.

〈単行本〉著者名：論文題名. 書名(版表示). 編者名. 頁-頁. 発行地：出版社. 発行年.

〈訳本〉著者名：論文題名. 書名(版表示). 編者名. 訳者名. 頁-頁. 発行地：出版社. 発行年.

[例]

〈雑誌〉

山田太郎：弘前駅東口再開発について. 弘前ジャーナル. 12(3)：45-67, 2020.

〈単行本〉

佐藤一郎：弘前の歴史. 津軽の歴史(初版). 鈴木次郎. 12-34. 弘前市：弘前城東出版. 2020.

〈訳本〉

George Smith：津軽藩とコーヒー. 東アジアのコーヒー文化の歴史(二版). John Paul. 田中三郎. 56-78. New York：Coffee Publishing. 2020.

雑誌名は略称とせず、正式名称を記載する。

- (4) ウェブサイトからの引用については文献リストに含め、URL(ウェブサイト住所)、閲覧した日付を記す。

[例]

弘前市の喫茶店

[http://www.hirosaki\\_cafe.co.jp/coffee.html](http://www.hirosaki_cafe.co.jp/coffee.html) (最終閲覧日：2020/12/20.)

- (5) 他の出版物から図・表等の資料を引用転載する場合は、その資料が著者自身のものであっても、必ず出典引用する。

## 3. 投稿の際の提出書類

- (1) 総説・原著論文・研究報告については、投稿原稿提出書の他、本原稿(表紙、和文要旨、英文要旨、本文、図表)と査読用原稿の計2部を電子投稿(下記)に準じてコンピューター・ファイルとして提出すること。電子

投稿においては、テキスト部分（本文、表など）はMicrosoft Word文書ファイルとし、図・写真等は1枚ごとに非圧縮TIFF、PNG、BMP画像ファイル等とする。JPEGファイル、Microsoft PowerPointファイルも受け付けるが、データ圧縮による画質低下が生じないように十分な注意を払うこと。表についてはMicrosoft Excel形式のファイルとしても良い。いずれもわかりやすいファイル名（例：本文.docx、図1.tif、写真1.jpg、表1.xlsxなど）をつけて電子メール、または個別メッセージに添付して送信すること。なお、査読用原稿においては、著者名、所属、謝辞、役割分担等、著者を特定できるような事項は掲載しないように注意すること。それ以外の投稿原稿については、投稿原稿提出書と本原稿1部のみ提出すること。

総説・原著論文・研究報告以外の投稿原稿については、投稿原稿提出書と本原稿の計1部を電子投稿に準じてコンピューター・ファイルとして提出すること。

(2) 原稿は各学科または専攻の紀要編集委員に提出すること。

#### 4. 謝辞、大学の正式な英語名等について

(1) 学長指定研究等は謝辞に記載する。

[例]

「本研究は弘前医療福祉大学学長指定研究により行われた。」

英文の一例を記載する。

This article was partially supported by a grant for designated research provided by the President of Hirosaki University of Health and Welfare.

(2) 大学などの正式な英語名および省略形を使用する場合の参考例を記載した。

弘前医療福祉大学

Hirosaki University of Health and Welfare ..... Hirosaki Univ Hlth & Welf

保健学部

School of Health Sciences ..... Sch Hlth Sci

弘前医療福祉大学短期大学部

Hirosaki University of Health and Welfare Junior College ..... Hirosaki Univ Hlth & Welf Jr Coll

令和4年4月1日制定

# 編 集 後 記

弘前医療福祉大学  
弘前医療福祉大学短期大部  
紀要編集委員会  
副委員長 工 藤 雄 行

新型コロナウイルス感染症の拡大は私たちの生活スタイルを一変させました。感染症拡大防止の観点から、講義や会議などもオンラインで実施する機会が増えました。学会での研究成果発表もその一つです。私事で恐縮ですが、ここ2年の間に何度か発表をする機会がありました。Zoomを利用しての口頭発表を皮切りに、オンラインでのポスターセッション、発表スライドに音声録音した動画を作成しオンデマンドで配信、質疑応答はチャットでなど、オンラインを活用した発表方法を一通り経験したのではないかと思います。対面でなくともオンラインで全て完結することに利便性を感じました。しかしその一方で、画面越しの音声と映像のみのやり取りに違和感を覚え、このようなことは一時的なことであって欲しいとも思いました。

新型コロナウイルス感染症の収束にはもう少し時間がかかりそうですが、様々な制限がある中でも今できることを考え柔軟性を持ち、教育も研究活動も地道に進めていくしかありません。今後も先生方の研究成果の公表の機会として、また地域社会に還元するためのツールとして、本紀要を積極的に利用していただければ幸いです。

弘前医療福祉大学 弘前医療福祉大学短期大学部紀要編集委員会

委員長	木田和幸	副委員長	工藤雄行
委員	中根明夫	委員	若松 淳
委員	鳥羽 葉	委員	小山俊朗
委員	成田秀美		

---

Journal of Hirosaki University of Health and Welfare and Junior College

弘前医療福祉大学 弘前医療福祉大学短期大学部 紀要

第4巻 第1号

(通巻14号)

令和5年3月30日発行

---

編集・発行 〒036-8102 弘前市小比内3-18-1  
弘前医療福祉大学 弘前医療福祉大学短期大学部内  
紀要編集委員会  
TEL：0172-27-1001

印刷所 〒036-8061 弘前市神田4-4-5  
やまと印刷株式会社  
TEL：0172-34-4111 FAX：0172-36-3299

---



## Contents

### [Forewords]

Message from the President of Hirosaki University of Health and Welfare  
**Hajime Shimoda**

### [Original]

Effects of fathers' participation in cooking classes on meal preparation  
**Sonoko Takase, Izumi Matsuo, Maiko Ishioka, Shizuo Kasai, Yoshiko Nishizawa** ..... 1

### [Report]

Study on subjective sense of well-being in elderly people living alone in the north Tohoku region  
**Izumi Matsuo, Yoshiko Nishizawa, Yumiko Fukuoka, Kenya Ishida** ..... 9

The situation of terminal care in group homes for dementia of the A prefecture  
**Yumiko Fukuoka, Takako Nakagawa, Yukari Kimura, Mihoko Kiriake, Hiromi Miura, Wakako Kumagai** ..... 17

Relationship between emotional intelligence and emotional words of health and welfare university students  
**Ariko Kodama, Yohei Okibayashi** ..... 25

### [Other Report]

Extension: Precept · All the answers are on site.  
~ Learning from Great East Japan Earthquake · Iwaizumi Typhoon No.10 ~  
**Yuko Araya** ..... 37

Extension: Rehabilitation of Fall Prevention for the Elderly  
**Yoko Ishii** ..... 43

Extension: To be a receiver of life  
**Umi Kudo** ..... 45

Extension: What is a language delay?  
**Mika Suto** ..... 49

Extension: Basics of back pain prevention and transfer assistance  
**Naoki Fukushi** ..... 51

Extension: A scene from the class - A little trick for making hashed rice!-  
**Shizuo Kasai** ..... 53

Implementation report: Creation of a self-learning support portal site 「Step up」 and its effects  
\*Report on the results of the questionnaire\*  
**Kazumasa Kamayachi, Shigeyoshi Echizen, Takahumi Okada, Nobuaki Tachioka** ..... 55

Implementation report: Hands-on event for caregiving experience—Disseminating the attraction of care and welfare  
**Naoki Nakamura** ..... 65